



今年も師走となった。様々な出来事に涙し、ため息もついた。中でも大震災の悲惨さは、暗く重たいものを私たちに残したままだ。先の見えない不安は一体いつまで続くのだろうか。

特に核、原発の問題は人間存続の危機感をあおる。広島、長崎に次いで、チェルノブイリ、そして東日本大震災と、これだけ大きく不幸な縁に出会っているにも関わらず、人間は目が覚めないのだろうか。便利が豊かだと錯覚している生活が、それほど恋しく、諦めがたいのだろうか。

さらに今、TPPで各国の駆け引きが、**つまるどころ(国益)損得勘定**で大問題になっている。損か得か、そんな事にしか幸せへの道が見出せなくなってしまった、人間の心が悲しく虚しい。

自分の居場所を探す

入方 O S

人生には成功もあり、失敗もあり、また喜怒哀楽の日もありましたが、兎陰矢の如しと申しますように、まさに夢のように過ぎ去っていった私の人生であったような気がします。

そうした中で阿弥陀さまや、お文さまの教えを思い出しながら感謝の日々を送っていました。また人間関係におきましても、お寺と門徒としての関係、家族との関係、また近所との関わり等も思ってみても多くの人々に支えられてきたお陰があったな一と思ひ起こされます。与えられた人生を有意義に過ごすために良き友と語り合いながら、のびのびと楽しく感謝の念を持ちつつ精一杯頑張りたいと思っています。

私は今、特別の用事がなくお天気が良ければ毎日ウォーキングを兼ねた御参りに出かけます。朝四時三十分～五時。自然に体が動きだし身支度を整える。まずは仏さまの優しいお姿が浮かびます。外に出て、まずは自然の空気を胸いっぱい吸い込み、田舎「心」に言い聞かせながら歩き始めます。その頃には外もようやく明るくなり、今日一日元気でいられますようにと思ひながら足を進めます。いつものように寺や神社に着くと、幸せになれますように「手を合わせ、御参りを終える」と帰途につきます。家に帰ると、先ずはお内仏様に今日一日家族が元気で良い日を送れますように手を合わせ、お勤めをします。これが私の一日の始まりです。

そして夜には今日も一日ありがとうございました。私が今、生かされていることを仏様に感謝をしながらお勤めをし、お休みなさいと心でお礼を言いつつ、一日を終えるのです。

おかげ様に、感謝をいめて

祖父江 M I

あの大きな爪痕を残した東日本大震災の、被災者支援の集いに本山へ参詣してから早八ヶ月が経ちました。まだまだ多くの問題を残しながらも徐々に復興され、被災者の皆さんの一生懸命生きてみえる様子が、テレビを通して伺い知ることが出来ます。

このあたりは、おかげ様で何の被害もなく過しておりましたが、被災地の方々の毎日の御苦勞を思うと心が痛みます。一日も早く平穏な日常に戻れることを願うばかりです。

さて、師走となり近辺の寺院では報恩講が、家庭では「おとりこじ」が勤められる時期になりました。以前ごこのお庫裏さんが報恩講は「親鸞聖人のご恩に報いる」ためであると、会報に書いておられましたが、今の私はただ御参りをし、お齋をよばれてということだけで、誠に申し訳ないと思っておりますが、家庭では「おとりこじ」をお勤めし故人を偲びながら、この一年、家族が健康で無事に過ごせたことをよるごび、感謝の思いを深めるよい機会となっています。またこの時期には、子供たちとクッキングでふれあい、ボランティアで独居老人への配食を通じて触れあい、皆さんと共に健康でお願いながら、生かされていることへの感謝を忘れずにと、一年を締めくくります。

十七文字に思いを込めて

今年米

まず初焚きを

仏前に

祖父江
M・Y

かつて、といつのもおかしな話だが、私の子供のころには、お仏壇が家庭の中心にあり、家長自らが率先してお仏壇との関わりをもった。当然その家族は仏様を敬い、大切に思わざるをえなかった。

頂き物があれば、まずは仏壇に、初ものもまずはお仏壇にお供え、といった具合に仏壇は誰よりも偉かった。

悪いことをすると仏壇の前に座らせられ、説教を受けたこともあった。仏さんには嘘はつけなかった。仏壇はいつも座敷のど真ん中にでんと座って、威張っているようにも思えた。

Mさんのお宅も、やはりお仏壇が中心にあるというところなのだろう。

新米の収穫。感謝の思いを込めて、まずは仏壇にという家庭の暗黙の了解が由来上がっている。そんな気がする。

皆さんの「家庭」は何が中心ですか？

まさか、インターネットも、自分？



完成間近の様子。
大屋根の破風の化粧もされ
とても綺麗になりました。

改修状況 その7

遅れに遅れて、十一月二十日には間に合いません」と。

この報告は、といつか事実として知らされたのが、一週間前。ずいぶん前から大丈夫かと言われてはいましたが、案の定でした。

とにかく報恩講にはと、ただ今猛ダッシュ中ですよとします。

坊守も頭クラクラ、住職オロオロとしながらも温かく見守っています。

そんな中、山門の工事が始まり、ちよひホシテ。

それと同時に、山門と客殿唐破風はおかげ様で立派です。

報恩講、除夜会にはぜひぜひお越しいただけますように。待っています。



客殿と花立て場。



左写真、後門裏廊下。
七～八センチ傾いていた廊下もすっきり安定。
二階部分は物入れ。まだ左側面板張り予定。



役目を終えた旧の山門。朱塗りがしてありました。



十一月二十八日。
棟上げ。前の門より三十センチ開閉部が広くなりました。

この門にも棟梁は力入れすぎました。基礎工事も入れての予算では、できないと思うほどの金額です。当初の見積にはなかった飾り物もついて、柱もしっかりしています。お孫さんの設計だそうです。親子三代宮大工。いいな～。

新聞の原稿募集中。

皆様の思いをお寄せ下さい。インターネットで光受寺情報発信中。

Koujyuji.comにて。光受寺で検索しても見ることができます。

(公式ホームページ) 教化活動より ブログへ...読んでくださいね。